

Future Dream

皆さんの夢を実現するため当会では資格取得後に2つのコースを用意しています。インストラクターになると、各施設における医療スタッフの教育に携わっていただくほか、講師として共に全国を回る「講師コース」、一般市民の教育を行っていく「一般市民教育コース」に進むことができます。

講師コース

全国規模の
教育活動を志す方



一般市民 教育コース

患者・家族を含む
一般市民の教育を
志す方



離床インストラクター・ アドバイザーを目指す方法

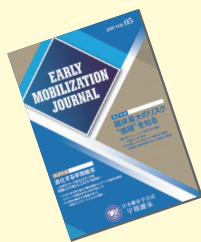
① **好きな講座なんでも良いので1つ受講してみる**
当会の講座はどれも受けても認定単位を取得できます。
受けてみたい講義をまず1つ選んで参加してみましょう。

② **プレアドバイザー筆記試験を受けてみる**
試験を受けて合格すると3単位が付きます。

①の受講に試験で単位を足すことで早く資格を取得できます。

③ **会員になる**

会員になると離床の情報誌・素敵なプレゼントのほか、
大幅な受講料割引が受けられます。



さあ、
あなたも共に

離床のエキスパートを目指しましょう！

問い合わせ先

臨床を元気に！ 日本離床学会 事務局

〒102-0073

東京都千代田区九段北1-2-12 プラールビル2F

ホームページ <https://www.rishou.org/>

TEL 03-3556-5585

FAX 03-6272-9683

Eメール jsea@rishou.org

日本離床学会

検索



目指せ！ 離床のエキスパート



日本離床学会
認定

離床インストラクター
アドバイザー
資格紹介パンフレット





離床は今、世界の注目を集めています。

2010年以降、世界の有名医学誌に離床のエビデンスが掲載され、その効果が驚きをもって報じられました。患者さんの早期ADL回復を促し、入院期間を短縮し、QOL改善まで望める早期離床に全世界のスタッフが全力で取り組んでいます。



資格の概要

離床インストラクター 離床アドバイザー制度とは



日本離床研究会では、離床に関する卓越した知識と技術を持つエキスパートを養成しています。臨床に根ざした講義・実技の所定カリキュラムを修了することで、「離床インストラクター」「離床アドバイザー」を名乗ることができます。

離床キャリアアップモデル

離床プレアドバイザー

まずはここから実力を腕試し
医療者として患者や利用者に対して円滑な離床の推進、また永続的な離床生活を送れるよう支援できる能力を有します。

取得条件

全国で年一度開催される**筆記試験**で基準点数を満たすこと
※アドバイザーから目指しても問題ありません。

離床アドバイザー

知能技術両立の 離床ジェネラリスト

理論、実技双方をバランスよく講座を修めることで修得できます。自身で離床を推進することだけでなく、周りへのアドバイスを通して所属する組織や団体に大きく貢献できる能力を有します。

取得条件

理論講座7単位+実技講座7単位を修めること。

離床インストラクター

応用力を兼ね備えた 離床のスペシャリスト

厳格な評価基準によって、筆記試験、実技試験を突破した限られた方が取得できる資格です。帰属する組織にとどまらず、多くの医療者への臨床教育や地域一般の方々への教育を自信をもって行うことができます。

取得条件

全国で年一度開催される**筆記試験**および**実技試験**で基準値を満たすこと。

有資格者の声



石巻赤十字病院
理学療法士
谷 崇史さん

私がインストラクターを目指したきっかけは、東日本大震災により病院の状況が一変したことです。改めて、「離床は一人では行えず、多職種が連携して進めるもの。早期離床をキーワードにチーム医療の構築を進めよう」と考えました。インストラクター取得後は、全国の講演での講師や実技講座でのアシスタントをしています。研究会の講師陣と交流を深め、自らをスキルアップし、離床研究会の活動目的でもある「離床のできる臨床家の育成」のお手伝いをしています。



医誠会 城東中央病院
看護師
植野 倍枝さん

私は興味のある講座に参加していたところ、認定条件を満たしていることに気づき、アドバイザー資格が得られました。研究会の講座に参加しているうちに、学ぶ楽しさ・知らないことを知る喜びを感じました。今では、得たばかりの知識が、次の日の臨床でも生かされるという嬉しさを原動力として、その知識をどう伝えていけばよいか考え、試行錯誤しながら働いています。

学ばっておもしろい!

アドバイザーを目指す講義では、臨床で感じるなげない疑問を1つひとつ丁寧に解説していきます。勉強を始めたらずに、学生時代になかなかわからなかった“学び”の面白さを必ず実感できるでしょう。



学会教育プログラム

